

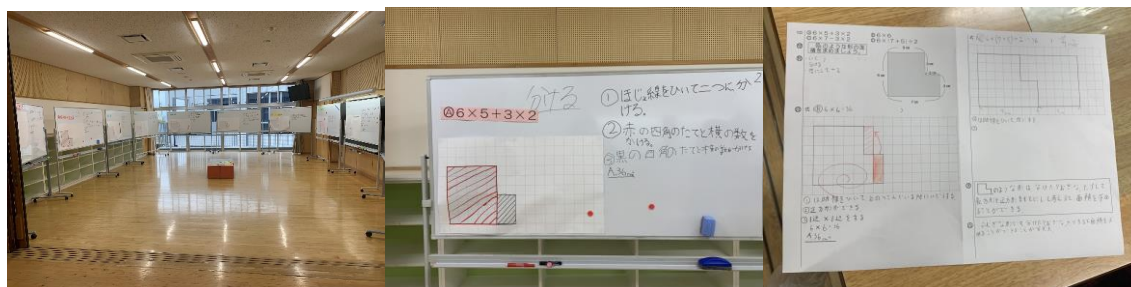
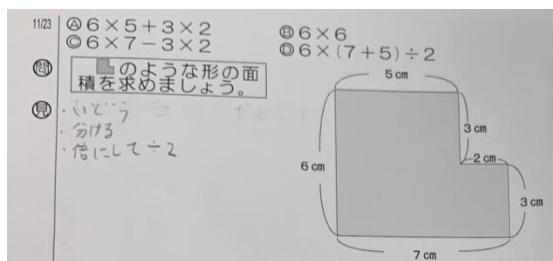
- 1 派遣期日 令和4年11月23日(水)
- 2 派遣先 茨城県大洗町立南小学校・中学校
茨城県東茨城郡大洗町大貫町1212番地の14
<https://www.minami-j.oarai.ed.jp>
- 3 研修内容 第17回教育実践研究発表会
大会主題
「対話」から未来を拓く-「対話」を深める学びのデザインを通して-
・全体会
・公開授業Ⅰ 小学校算数 面積 授業者 風間 克彦先生
・公開授業Ⅱ 中学校数学 図形と相似 授業者 川崎 美和先生
小野瀬 京子先生
・研究基調
・講演会
演題「未来を拓く学びのデザインをどう描くか」
講師 早稲田大学教育・総合学学術院教授 小林 宏己 先生
・ワークショップ型研究協議会
助言者 東海村立中丸小学校 田村 俊彦校長

4 感想

○公開授業の感想

- ・小学校算数「面積」(授業者 風間 克彦先生)

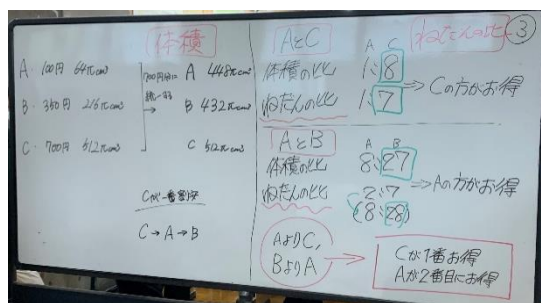
小学校算数は、長方形と正方形の面積の求め方を利用して、ブーツ型の面積を求める方法について説明する授業であった。導入部分では、既習事項をクラス全体で確認したり、課題に興味をもたせるために「サンタさんからのプレゼント」という設定で問題を掲示したりと、小学校ならではの工夫がされていた。本題に入る前に、問題の面積を求める方法として4つの式を提示した。どのようにすればその式の求め方にたどり着くのか考え、説明させる取り組みは素晴らしかった。その他にも、提示した4つの式から自己選択をさせることで、主体的に取り組ませていた。また、4つ以外の式でも良いことを伝えるなど、児童の考えを大切にする取り組みは、勉強になった。自己解決の後には、同じ式を選んだ児童同士でグループを作り、ホワイトボードにその説明を書く活動を行っていた。役割分担をし、互いに協力して取り組んでいる姿はとても生き生きとしており、児童も楽しそうだった。その後、別の考えを比較検討をし、それぞれのポイントを全体で確認していた。



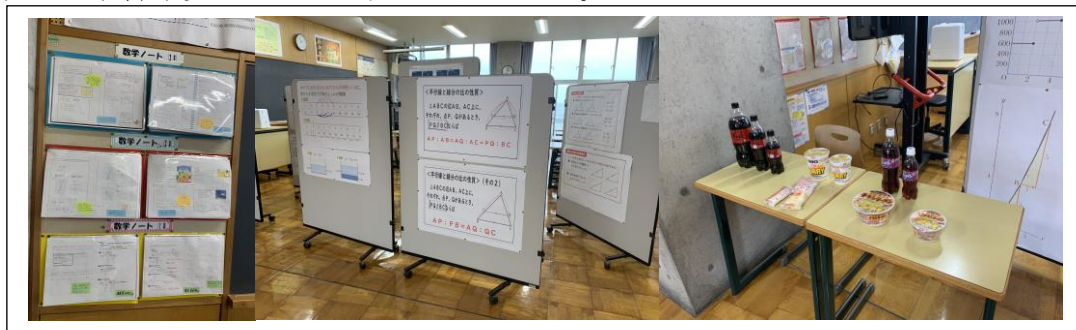
空き教室にホワイトボード(10台)があり、それぞれの考えをグループごとにまとめた。ワークシートも大きく自分の考えが書きやすいように工夫がされていた。

- ・中学校数学「図形と相似」（授業者川崎美和先生，小野瀬京子先生）

本時の課題は，「相似比と体積比を使って 3つのアイスクリームのうち割安なのは，どれか考え説明しよう。」だった。この授業では，T1とT2の先生で役割分担をしっかりと行っているところが勉強になった。課題解決に向けて，自力解決の時間を十分にとり，その後グループになって練り上げ，ホワイトボードに自分たちの考えをまとめていた。中学校3年生だったので，これまでやってきたことの積み重ねが生かされ，どのグループも自分たちの考えを明確にまとめており，発表も分かりやすかった。



大洗南中学校は，オープンスペースの活用が十分にされていて，教科ごとの教室で生徒達が学習をしていた。教科ごとの教室では，既習事項の掲示物や生徒の授業ノートの掲示，身の周りにある数学など，生徒に興味関心をもたせる工夫がされていて，自身も改めて学習環境を整える大切さを実感した。



○講演会の感想

講師の小林先生から「未来を拓く学びのデザインをどう描くか」というお話をいただいた。そこでは，ICT はあくまで道具であるので使うことを目的にせず使いどころを見極めること，本来の人と人との学び合いを忘れずに大切にすることが印象に残った。また，授業は，教師が主役ではなく，児童生徒が主役であることを改めて考えさせられた。例えば，授業の課題設定やそのまとめ方について教師主導になっていないか，ということである。学習形態での教師の立ち位置についても助言をいただき，日々の自分の授業を振り返るよい機会になった。また，講義の中の「子どもの変容から，教師が変わる更新」を意識して，今後も研修に取り組んでいきたい。

○研究協議の感想

研究協議では，授業参観をして良かった点，改善すべき点について互いに意見を出し合った。私のグループでは，ホワイトボードを活用し，グループ活動を充実させているところや，自力解決の場所とグループでの話し合いの場所を使い分けることで授業にメリハリがつき，とても良かったという話題があがった。改善点は，短縮できるところは ICT を活用するという事だった。

助言者の田村校長先生からは，「対話」と「議論」を大切にすること，主体的に取り組む態度の育成では，自己決定をするために子どもが目標を理解し，課題に対して見通しをもつことが大切であること，対話的に取り組む態度の育成では，自分の考えを表現し友だちの発言と自分の考えを比較検討することで協働的な学びにつながる事，その思考と表現を行き来することで深い学びにつながり学びの実感につながるというお話をいただいた。また，「対話」には3つの種類があり，「課題との対話」「仲間との対話」「個人との対話」を大事にしてほしいという言葉がとても印象的だった。

今回の研修を通して，課題解決において個人，ペア，グループ，全体などの多様な学習形態，ICT 機器を状況に応じて授業に取り入れていくことが大切だと感じた。今後も研修を重ね自己研鑽をしていきたい。